



# 鳥取県教育センターだより

## Tottori Prefectural Education Center News

〒680-0941 鳥取市湖山町北5丁目201 【TEL】0857-28-2321（代表）【FAX】0857-28-8513  
【URL】<https://www.pref.tottori.lg.jp/kyoikucenter/> 【e-mail】[kyoikucenter@pref.tottori.lg.jp](mailto:kyoikucenter@pref.tottori.lg.jp)

### 「GIGAスクール構想」の実現に向けた取組を進めています



「学びの改革元年」と位置づけた令和3年度も5か月が過ぎましたが、「GIGA スクール構想」の取組が各学校で着実に進んできています。県教育委員会では、1か月に1回、ICT活用教育推進地域や学びの創造先進校で実践された事例等についての情報を「とっとり GIGA スクール構想推進チャンネル」(GIGA チャン)において発信しています。今回はその一例を紹介します。

#### 【三朝町立三朝中学校の取組内容 (概要)】

- (1) 校務での活用
  - ・クラスルームを利用して週案を提示
- (2) 連絡に活用
  - ・家庭でのフォームの利用促進 (三者懇談申込、PTA 総会の書面審議、ICT アンケート等)
  - ・全校生徒への連絡はクラスルームを活用 (生徒への呼びかけ、アンケート等)
- (3) 行事での活用
  - ・校外への端末の持ち出し、共同編集
  - ・大山散策 (1年)、トライワークみささ (2年)、修学旅行 (3年) で活用

#### GIGA チャン好評配信中！！

- ウェブ会議システム (Meet) を利用して配信
  - ・ Meet 会議コード「gigachan」
  - ・午後4時から午後4時40分まで
- 今後の配信予定  
9月24日、10月22日、  
11月26日、12月6日

#### 【大山町立名和小学校の取組内容 (概要)】

- (1) 学習等での活用
  - ・ジャムボードの活用 (総合的な学習の時間・3年、国語・1年)
  - ・タブレットドリルの活用 (全学年)
  - ・写真・動画の撮影 (2年、4年)
  - ・インターネット検索 (大山フィールドワーク・5年)
  - ・タイピング練習 (全学年)
  - ・視覚支援の充実 (算数・4年)
  - ・児童の実態調査 (学校生活アンケート、スクールライフノート)



※その他の学校の取組については、教育センターHPのGIGA チャンのページをご覧ください。



### 9月からの ICT 活用に向けて、教員の行動目標「3つのスキル」を習得しよう

県教育委員会では、1人1台端末環境での教員の行動目標 (令和2～3年度) として、授業での活用場面において次の3つのスキルにより、指導ができるようになることをめざしています。

#### スキル1：カメラ機能を使う授業場面をつくる

⇒ 児童生徒は校外活動や実験・観察の記録等を保存し活用することができます。

#### スキル2：ファイル共有機能を使う授業場面をつくる

⇒ 同時に複数の児童生徒が共同作業することができ、効率的かつ多様な学びになります。

#### スキル3：Google フォームの機能を使う授業場面をつくる

⇒ 小テスト、振り返りの記述等とおして、児童生徒は自分の学習を振り返ることができます。



ICT活用指導力は、これからの教員には必要な資質能力の一つです。上記で示した3つのスキルを意識しながら、日々の授業実践を振り返ってみましょう。ICT活用ハンドブックには、具体的な授業場面や「活用に向けての教員のセルフチェック」を載せていますので、御活用ください。(P21～30参照)

# 「みんなで育てる！みんなが育つ！」学校づくりをめざして

—第1回初任者アンケートを実施しました—

このたび県教育センターでは、初任者教員の困り感や悩み等の現状を把握し今後の研修等による適切なサポートにつなげるため、全初任者教員を対象としたアンケートを実施しました。各対象者、学校には御協力いただきましてありがとうございました。

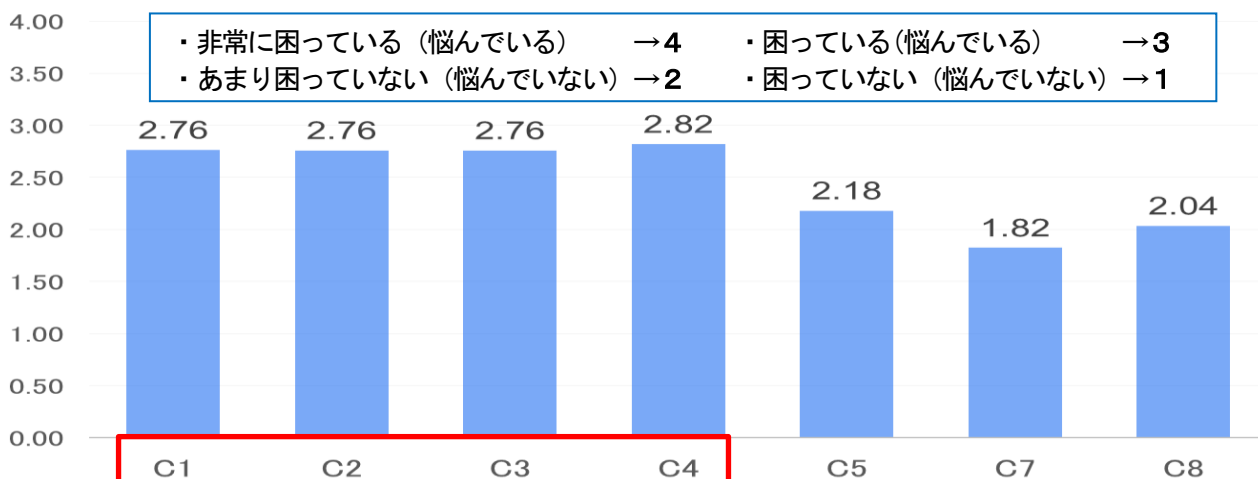
本アンケート結果の一部を紹介しますので、「みんなで育てる！みんなが育つ！」学校づくりに向けて各学校の実態に応じて御活用いただきますようお願いいたします。

## 1 初任者（新規採用者を含む）の困りごと・悩み

「現在、仕事に関することで困っていることや悩んでいることはありますか。」という質問について、下記のC1～C8（C6部活動の指導に関することについては集計から除く）の項目ごとに、すべての対象者が選択した数値を平均しました。



C 仕事に関する困りごと、不安、悩みの平均値



C1 学習指導に関すること      C2 学級経営に関すること      C3 生徒指導に関すること  
C4 特別な配慮を要する児童生徒に関すること      C5 保護者対応に関すること  
C7 職場の人間関係に関すること      C8 校務分掌に関すること

**参考** 5月27日に実施した初任者研修におけるアンケートでは、「あなたがこの仕事に対してやりがいを感じていることは何ですか」（自由記述）という質問に対して、94%の初任者が「児童生徒の成長」「児童生徒の成長に関われること」を挙げていました。多くの初任者が、教師として児童生徒の成長を願い、喜びを感じていることがわかりました。

初任者の「困りごと・悩み」の度合いは、「特別な配慮を要する児童生徒に関すること」が最も強いという結果となりました。初任者のうち新卒者が多くを占めるようになり、大学等での学びと実際の学校現場とのギャップを感じ、児童生徒への対応、指導に苦慮している様子がうかがえます。

また、C1～C4は児童生徒への指導に直接関わる内容であり、他の3項目と比較して高い数値を示しました。多くの初任者が「児童生徒の成長」を願っているという別のアンケート結果を加味して考えると、この結果は児童生徒の成長のために自身が成長し力量を高めたいという気持ちの表れでもあり、初任者は仕事をとおして児童生徒に力をつけるという教師の本分に価値を見出すとともに、自身の未熟さや指導力不足を厳しく見つめ振り返ることができていると捉えることもできます。

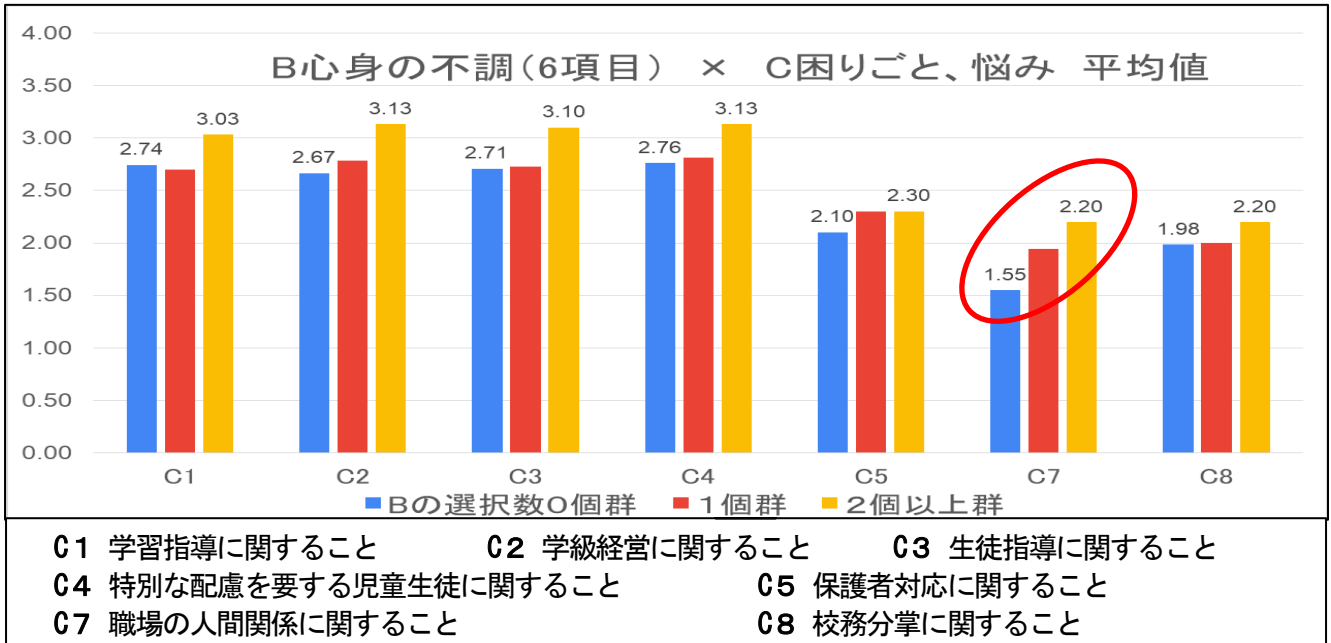
初任期のストレス抑制には自らの態度、行動や実感などの主観的要素が強く働くという研究報告もあり、初任者が仕事をとおして「やれている」という実感を得ることができるようなサポートを周囲が提供できることが望ましいと述べられています（\*）。このようなサポート体制を工夫しておられる事例について、令和2年度の小・中学校初任者研修における所属校長への聞き取り内容から抽出し、別紙資料にまとめましたので参考にしてください。（\*川上泰彦編著「教員の職場適応と職能成長」ジアース教育新社2021）

## 2 心身の強い不調と困りごと・悩みの関係

「最近1カ月の状態について、最もあてはまるものを選んでください。」という質問について、以下の心身の不調（6項目）について、B1～B4は強い否定「あてはまらない」、B5、B6は強い肯定「あてはまる」を選択した数の合計によって0個の群、1個の群、2個以上の群に初任者を分け、それぞれの群がC1～C8の質問にどのように回答したかを比較しました。



【B心身の不調（6項目）】 B1～B4は「あてはまらない」、B5、B6は「あてはまる」を選択した数の合計  
**B1 元気だ B2 やる気がある B3 食欲がある B4 よく眠れる**  
**B5 気がはりつめている B6 ゆううつだ** } → 0個群、1個群、2個以上群



選択数2個以上群と0個群を比較すると、2個以上群が高い数値を示しています。とりわけ、C7「職場の人間関係に関する事」については、差が0.65と最大値を示しました。人間関係に関する悩みは時に大きな負担となり業務に支障をきたす可能性があることから、不調を感じやすい初任者に対しては、適度な声かけ、業務をとおした多様なつながりづくり等、より一層の配慮が必要であるといえます。

困りごと、悩みは多くの初任者が感じていたものの、「困ったり、悩んだりしたときに校内に相談する相手はいますか」の質問に対して、多くの教職員を挙げていました。「その相手はどのような存在ですか」とさらに問うと、思いや考えを受け止めてくださる存在、声をかけ気にしてくださる存在、頼りになる存在との記述が多くみられました。また、とっとりメンター制度を導入している学校では、メンターチームのメンバーが多く挙がっており、有効な支援につながっていると考えます。

先輩教員には豊富な経験から身に付けた技術やノウハウがあります。若手教員に積極的にに関わり、それらを継承し人材育成を進める役割を担っていただきたいと思います。当教育センターでも、コロナ禍における研修の機会の確保や内容の精選・充実、個別支援の工夫、初任者同士のつながりづくり等、アンケート結果を活用した育成を図っていきます。

NEWS

### 情報教育棟の研修室をリニューアルしました！



7月上旬、情報教育棟の機器の更新と合わせて研修室をリニューアルし、新しい情報機器（映像収録システム、3Dプリンター、ドローン）も導入しました。

研修室及び情報機器については、今後、教職員研修等で活用していく予定です。



(別紙資料)

**校内人材育成に向けた取組の工夫について**  
—令和2年度 初任者研修（小・中・義）に係る学校訪問より—

令和3年8月  
鳥取県教育センター

県教育センターでは、小・中・義務教育学校対象の初任者研修において、令和2年度から指導主事等が所属校を訪問して研修を行う訪問型研修を実施しています。訪問時の学校長との協議の中で、標記の人材育成に向けた校内の取組とその考えをうかがいました。御協力いただきまして、ありがとうございました。

聞き取り内容から、各学校において、若手教員の実態や状況に応じた様々な取組を工夫されていることがうかがえます。事例の一部を紹介しますので、参考にしてください。

### 1 大役にチャレンジさせて若手教員を育てる工夫

- ・3年目の教員に、行事の全体指導をする体験をさせ、経験を積ませた。たとえ失敗しても、子どもを思う気持ちがあればよいと考え、本人に任せて周りの教職員が支援するようにした。
- ・学年団で若手教員に任せる部分を増やすように指示をし、管理職がフォローした。

### 2 OJTの時間や機会を生み出す工夫

#### <若手教員対象の研修会、自主研修会その他研修会>

- ・ベテラン教員が自主研修会を開き、若手教員が参加している。若手教員が講師を務める場合もある。この会をきっかけに、日常で意味のある雑談が増えてきた。ベテラン、若手双方に評判がよい。
- ・月に1回程度、放課後にみんなで学校のことを考える機会をつくっている。若手教員が学校運営に参画する意欲を高めている。これからはテーマを決めて話し合いなどをしたい。
- ・忙しくしていると、若手教員は先輩教員に質問するのを躊躇うことがあるので、毎週1回先輩教員と一緒に作業をしたり授業を考えたりしながら学べる機会を設けている。

#### <外部の研修とつなげた人材育成>

- ・経年研修の対象教員が若手教員育成を研究テーマにしており、OJTの取組推進を行っている。
- ・教育センター等の研修を教職員が校内に還元する流れをつくっている。

#### <校内初任者研修の活用>

- ・初任者研修の示範授業の情報を掲示しておき、2年目教員、3年目教員、講師も参観できるようにしている。示範授業を行う教員も観られることで力がつく。
- ・初任者の学級で示範授業を行うことで、初任者、示範授業を行う教員双方にとって効果がある。

#### <時間の生み出し方>

- ・水曜と金曜を15時下校とし、放課後の時間を有効に使えるようにしている。
- ・職員会後の10分程度を「学び合い研修会」に充て、OJT推進につなげている。

### 3 人材育成を意図した教職員の配置、体制の工夫

#### <学年主任、学年団の活用>

- ・学年主任には1時間余分に空き時間を与えて同学年の教員の授業を観に行く時間とし、得た情報は週1回の学年会における授業づくり、生徒指導に関する協議に生かすよう指示している。
- ・学年主任の考えを理解し若手教員に伝える存在として、中堅教諭を学年に位置づけている。
- ・授業研究会において、若手教員が同学年3学級で本時の学習を3回行い、力をつけた。
- ・学年主任及び同学年担任に日ごろから初任者の育成を意識し、指導及び助言するよう指示している。

#### <運営の工夫その他>

- ・校内OJT担当をつくり、担当が若手教員に積極的に声をかけ、具体的な助言をしている。
- ・若手に若手を指導させる。
- ・週に1時間程度、全学年で担任をシャッフルして授業を実施している。他の学級の様子を知ることは、ベテラン教員にも若手教員にもメリットがある。
- ・ペア担任制を実施し、年間2回程度担任を交代している。生徒、保護者、教職員から好評を得ている。
- ・若手教員が日常的に指導・支援を受けやすいよう職員室の席配置をしている。